

令和元年度 白鳩チルドレンセンター八雲中事業報告

1. 概要

①運営方針

- 守口市においては0歳児からの幼児教育・保育の無償化の影響もあり、認定こども園や保育園への入園希望が多く、待機児童解消のため施設整備を行った結果待機児童数はゼロとなりましたが、深刻な保育士不足による受け入れ数減少で収入が減り経営環境は芳しくありません。
- 「保育の一日の流れ」の再確認と内容の修正を目的として、法人各園の保育士が参加し、白鳩チルドレンセンター東大阪において毎月定例で年齢ごとの実地研修と各園での取り組みの報告を行う研修に参加しました。今後も継続して全職員で内容を共有し、保育内容の向上に取り組みます。
- 保育料の無償化に伴い自己負担となった3～5歳児(2号認定児童のみ)の給食副食費について、保護者の負担軽減を目的として守口市の単独補助として1食4500円が園に補助金として支払われました。次年度についてはその補助の範囲を1号認定児にまで拡充し補助する方針となっています。

②定員 129名

| | | |
|------|-------------|--------|
| 1号認定 | 18名 (定員15名) | |
| 2号認定 | 76名 (定員63名) | |
| 3号認定 | 53名 (定員51名) | 合計146名 |

③開園日数 290日 (日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園) 教育週数 39週

④開園時間 平日7:00～20:00 土曜日7:00～18:30

⑤保育時間

★2号3号認定児

平日

| | | | | |
|------|------------------------|----|------|-------------|
| 早朝保育 | 7:00～8:30 | 土曜 | 早朝保育 | 7:00～8:30 |
| 通常保育 | 8:30～16:30 | | 通常保育 | 8:30～16:30 |
| 延長保育 | 保育短時間児 16:30～20:00 | | | 16:30～18:30 |
| | 保育標準時間児 18:00～20:00 | | | 16:30～18:30 |

★1号認定児

| | | |
|----|-------|-------------|
| 平日 | 早朝保育 | 7:00～9:00 |
| | 通常保育 | 9:00～13:30 |
| | 預かり保育 | 13:30～20:00 |

⑥職員数

園長 1名、 主幹保育教諭 2名、 看護師 1名、保育教諭15名
障がい児加配 3名(うちパート1名) 子育て支援センター事業 保育教諭3名(パート)
延長保育事業 保育教諭(パート)2名 一時預かり事業 保育教諭(パート)1名
1号認定児預かり保育教諭 保育教諭(パート)1名 その他保育補助 2名(無資格)
保育支援員 1名 学校内科医・学校歯科医各1名(年各2回検診実施)
学校薬剤師1名(年2回検査実施)

2. 教育保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育・保育目標

乳児期の愛着関係を基盤とし、非認知能力(意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感)と認知能力(記憶、計算、判断、決定、言語理解など)を育む。

④クラス体制

| | (3号認定) | (2号認定) | (1号認定) |
|-----|--------|---------|--------|
| 0歳児 | 10名 | 3歳児 24名 | 6名 |
| 1歳児 | 18名 | 4歳児 26名 | 6名 |
| 2歳児 | 25名 | 5歳児 25名 | 6名 |

⑤教育・保育内容

- マニュアルに沿った保育ができるように、リーダー職員が「保育の一日の流れ」について特に新入職員や派遣職員にはOJTを行いながら丁寧に伝えていきました。リーダー職員も保育の方法やその根拠を伝えたことで自身の保育の見直しができました。
- 乳児のじゃれつき遊びの時間に「わらべうた」を使ったふれあい遊びを行いました。「わらべうた」を歌い触れ合うことで子どもたちの心の安定につながり、人と触れ合う心地よさを感じています。また、幼児クラスでも人に触れることを嫌がったり、トラブルになったりする姿が減ってきてい

ることからじゃれつき遊びや「わらべうた」を使っての触れ合い遊びが人と関わる力や感情をコントロールする力へとつながっていると感じています。

- 各クラス園庭、ホールの両方の環境を使う運動遊びのプログラムを考えて取り組みました。毎日継続して行っているものの子どもの体幹の弱さやバランスの悪い子どもが多くいるため、エアマットや階段ダッシュなど子どもの運動機能が高まる運動遊びを考え取り組んでいきます。
- リトミックについては、乳児クラスは週2回、幼児クラスは週1回リトミックを行いました。ピアノに合わせて瞬時に動く即時反応や体の入力脱力する体の機能にはまだまだ伸びる力があると考えてるため、目標を明確に細かく指導をしていきます。
- 年中クラスに配慮を必要とする子どもが多いため、身体を動かす活動時間を多く取り、十分に遊び、エネルギーを発散させるようにしました。
- 3ヶ月ごとにテーマを決めてテーマ保育に取り組みました。継続してテーマ保育に取り組むことで一つのことにじっくり取り組む力や粘り強く調べたり、考えたりする力が身についてきています。その反面、興味の持たない子どもがいることも現状であるため何か一つでも興味を持って取り組んでいけるように役割分担したり、保護者の方にも協力をしてもらうなど園全体で取り組みます。
- 毎月2回外部講師による歌唱指導を行いました。様々な音楽や歌に親しむ機会が増えたことで歌うことの楽しさや歌を通じて表現する心地良さを感じられるようになりました。今後も外部講師の指導を受けながら子どもたちの表現力や想像力が広がるように取り組みます。
- 土づくりから苗植え、水やりや除草、収穫などすべての栽培工程に携わり、栽培活動を行いました。子ども達が様々な形で食にかかわる体験をすることで食に対して興味を持ち、命をいただくことの大切さを学ぶことができました。

⑥家庭との連携

クラス懇談会（年2回）個人懇談会（年1回）就学前個人懇談会（1回）、保育参加（年1回）リトミック参観（乳児・幼児 年1回）を行いました。

- 保育参加に年に1回来てもらうことで園の取り組みを理解してもらう良い機会となっています。また、自分の子どものみならず他の子どもの成長にも関心を持っている保護者が多く、保護者の子育てに対する関心度の高さを感じました。
- 配慮が必要な子どもについては、保健センター、わかくさ・わかすぎ園と連携し、訪問支援に来てもらい、発達相談を受けました。また、5歳健診の結果をもとに、OT/P Tの巡回指導（年3回）を受け子どもに対するきめ細やかな関わり方を教えてもらい、発達相談につなげるなど就学に向けての取り組みを行いました。保健センターには園の考えや取り組みも十分に理解してもらい、その場限りの支援にならないように継続して連携していける仕組みを守口市に要望します。

⑦人材育成

- 法人全体で取り組む「一日の保育の流れ」の勉強会に主幹保育教諭、リーダー職員を中心に参加し、自園の「一日の保育の流れ」を見直しました。子どもの導線を考えた環境づくりや子どもへの丁寧な関わりについて見直しすることができ、リーダー職員を中心に全職員で共通認識をする

事ができました。今後も継続して行えるよう現場指導を行います。

- 安田式遊具を用いた運動遊びについては、講師を招き各年齢発達に応じた運動あそびの指導法や集団遊びの進め方について学びました。
- 「石井式漢字教育」、「わらべうた」の外部講師を招き、全職員が実技研修に参加し、子どもの見方ややり方を見直すことができました。
- 個別研修計画に基づき、園外（守口市こども部、私立認定こども園会、日本保育協会、大阪府社会福祉協議会など主催）の研修会に参加し教育・保育の質の向上に努めました。

⑧地域の実態に対応した事業

●地域子育て支援センター事業（センター型）

- ・地域コミュニティーセンターを月1回利用して出張保育を行いました。また、守口市子育て世代包括支援センターとも連携し、おたよりや手作りおもちゃのキットを置くなどして園の情報発信を行いました。
- ・活動内容は毎月のおたより、ホームページ、守口市広報紙にて地域に情報発信を行いました。
- ・近隣の認定こども園3か園、保育士養成校と合同で地域の子育て中の親子対象に「遊びの広場」を年3回行い遊びの提供や講演会などを開催しました。毎回約120組の参加があり、園見学や1号認定の入園へとつながりました。

●地域とのかかわり

- ・守口市の伝統野菜、守口大根を地域の方、守口東高校の学生と一緒に栽培を行いました。世代を超えた交流ができ、守口東高校の学生も小さい子どもたちと触れ合う機会を喜んでいます。また、保育体験や家庭科の授業の一環として子どもの育ちを伝える「命のふれあい授業」を行い、次世代を担う学生の方に子育ての大変さや命の大切さを伝えることができました。
- ・近隣のデイサービスセンターの敬老会に参加し、歌の披露や、手あそびをするなど地域の高齢者の方との交流を行いました。また、卒園児の保護者の方が勤務するデイサービスの秋祭りにも参加しソーラン節を踊るなど世代間交流を行いました。
- ・連携医でもある中野こども病院が主催する研修会に主幹保育教諭や看護師が参加し、子どもの健康に関する情報交換を行い知識の向上に努めました。また配慮の必要な子どもの発達相談や入院、通院時には「入院・通院連絡カード」を使い子どもの状態を把握できるようにしました。
- ・5歳児の就学先の小学校に授業見学や交流会に参加する予定でしたが新型コロナウイルスの影響で中止となりました。就学先の校長、教頭、担当教諭とは電話で子どもの育ちや生活や学びの実情について伝え合い相互理解に努めました。

⑨苦情処理

- 第三者委員会の設置について、園のガイドブック、ホームページや園内掲示または、クラス懇談会（5月）にて保護者に知らせました。
- 「苦情申し出窓口」として主幹保育教諭が受付担当者、園長が責任者として、「意見箱」「アンケート」など保護者からの意見や要望に対しては24時間以内に対応しました。

⑩リスクマネジメント

- 年度末に危機管理委員会を中心に見直しを行った「危機管理マニュアル」、「保健マニュアル」については、職員研修計画に基づき、園内研修で職員に周知徹底を行いました。
- 消防署と連携し、総合災害訓練（年1回）、通報訓練（年2回）を行いました。また、子育て支援を利用する地域の方と合同での災害訓練を行い在園児のみならず地域の人にも災害に対する意識を高めることができました。
- 隣接する守口東高校が一時避難先となるため、年5回、合同での避難訓練を行いました。避難経路の確認や危険な場所の認識を全職員で確認できました。
- 災害時の対応については、保護者にもクラス懇談やガイドブックで丁寧に伝えるとともに、地震を想定して「引継ぎ確認票」を使って引き渡し訓練（年1回）を行い、保護者と連携して園児の安全確保ができるよう取り組みました
- 「安全管理年間計画」に基づき、危機管理委員会が中心となり、安全管理と園児への安全指導を月1回実施しました。
- ヒヤリハットの事例について収集し、危機管理委員会が事例をまとめ、昼礼や職員会議で事案を検証し、事故防止に努めました。
- 日本赤十字社、守口市消防署の救急救命講習に職員が参加し、緊急時の対応に備えました。また、職員会議で SIDS（年2回）、アレルギー対応、エピペンの使用方法について、看護師を中心に園内研修を行い迅速な対応への意識向上に努めました。
- 備蓄品リストをもとに災害備蓄品の点検を行いました。（引継ぎ確認票・非常持ち出し袋・倉庫備品・アレルギー児用備品など）。賞味期限に近い食品については給食やおやつで提供しました。
- 警察機関と連携して職員への防犯実施研修（年2回）園児への防犯指導（年1回）を行いました。
- 守口市の保幼小学校に爆破予告があり、乳児は近隣の高齢者施設へ、幼児は近隣の会社をお願いをし、避難をさせてもらいました。今後も有事の際は受け入れをしてもらえるように連携を図ります。

⑪その他

- 空調機器、給食室の通気口に急遽の補修箇所が必要となり工事を実施しました。